別紙

【第７回審議会意見シート】主な意見等

望ましいと思うブロック候補案と再編の具体案について	＜望ましいと思うブロック候補案に関する意見＞ ・地域性という視点を最優先に考えると、５つのブロックに分けた候補案３が望ましい。 ・当初はブロック候補案２と候補案３で悩んでいたが、最終的には候補案３が望ましいという結論に至った。 ・意見募集の結果において一定の賛同が得られていることや、20 年後も一定の学級数を確保することができ、再々編の懸念が少ないことを踏まえ、候補案３が望ましいと考える。 ・地域住民の納得感がなければ、どんなに合理的な案でも反発は生じるものである。その点候補案３は住民の理解を得やすく、教育的にも妥当性がある案だと考える。 ・意見募集の結果で候補案３が多くの支持を得た理由として、保護者や地域住民の視点では「合理性と地域性のバランスが取れていること」、校長・教員の視点では「現場としても持続可能性が高い」といったことが挙げられるのではないか。
	＜再編の具体案に関する意見＞ ※候補案３を想定 ○全体 ・Ａブロック、Ｂブロック、Ｅブロックから再編に着手する。 ・再編のケースによっては、一挙に再編を行うことが難しい場合もあるため、段階的な再編も視野に入れて考える必要がある。 ・「望ましい児童生徒数の指標」を考慮すると、河川や道路状況といった心配はあるものの、ブロックを超えた再編も視野に入れる必要があるのではないか。 ・不登校の児童生徒の受け皿となる、少人数の学校の設置についても検討する。 ○Ａブロック（北川辺中学校区） ・北川辺西小学校と北川辺東小学校を北川辺中学校へ再編し、義務教育学校とする。 ○Ｂブロック（加須北中学校区と大利根中学校区） ・広域再編を第一に考えたい。具体的な組合せは、大越小学校、樋遣川小学校、原道小学校、豊野小学校としたいところだが、豊野小学校は大利根中学校に近いため悩ましい。 ・大越小学校と樋遣川小学校を原道小学校へ、大利根東小学校と豊野小を学校元和小学校へ、加須北中学校を大利根中学校へ再編する。 ○Ｃブロック（昭和中学校区と加須西中学校区） ・不動岡小学校、礼羽小学校、志多見小学校を加須西中学校へ再編し、義務教育学校又は小中一貫型小学校・中学校とする。 ・加須南小学校を加須小学校へ再編する。 ・三俣小学校、昭和中学校は現状維持とする。 ○Ｄブロック（加須東中学校区と加須平成中学校区） ・花崎北小学校を大桑小学校へ再編し、その他の学校は現状維持とする。 ○Ｅブロック（騎西中学校区） ・田ケ谷小学校、種足小学校、鴻茎小学校、高柳小学校を騎西小学校へ再編する。騎西中学校と隣接していることから、分離型の小中一貫教育を行う。

基本計画（素案）に対する意見交換会について	＜対象者に関する意見＞ ・保護者と地域住民を分けて実施 ＜開催単位に関する意見＞ ・ブロック単位 ・中学校区単位 ・地区単位 ＜その他の意見＞ ・専門用語や難しい文言が理解の妨げとならないよう、分かりやすく説明する必要がある。 ・学校再編が必要とされる理由を明確にすべきである。 ・市が望ましいとする学校規模や教育理念等について説明できること。 ・学校再編の具体案を絞っていくということは、その明確な根拠を用意しておかなくてはならない。 ・再編によって使用しなくなった学校施設の利活用について、あらかじめ検討しておいた方がよい。 ・こどもたちの声を取り入れることで、学校再編の正当性や地域住民の納得感が高まるのではないか。 ・様々な意見が出てくると思うが、魅力ある学校づくりについて理解を深めてもらい、合意形成が図られるとよい。

その他ご意見など	・グループ協議の中で「小中一貫校」という言葉が出てきたが、具体的にどのような意味を指すのか確認したい。 ・第７回審議会のグループ協議における各グループの発表では、非常に新鮮で視点が大きく広がる提案がなされた。こうした柔軟な視点は、再編を前向きに考える上でとても大切だと思う。 ・優先度の高いブロックの再編を進めないと、児童生徒だけでなく今後の教員の採用にも影響が及ぶ。 ・高校では最低でも１学年４クラス規模が確保されている。このことを踏まえ、小・中学校においても１学年３クラス規模であれば、十分にきめ細やかな教育環境を提供できるという認識を共有する必要がある。 ・再編に伴い、通学区域の見直しも必要と考える（例えば、Ａ校とＢ校が再編となる場合、Ｂ校の通学区域の中でＣ校に近い地区については、その地区ごとＣ校の通学区域へ組み入れたり、進学先を選択制にしたりするといった対応が考えられる）。 ・スクールバスの導入に当たっては、保護者による送迎の現状や通学路の安全状況などを踏まえた検討が必要である。 ・再編により使用されなくなった学校施設の利活用について、学童保育施設や市民団体等の活動拠点とするほか、上層階を避難スペースとするといったことが考えられる。